

# 野口さんの日本の精神風土の形成論について

太田隆次

このたび縄文・弥生のご研究シリーズの今回頂いた「日本の精神風土の形成論」について意見をお求め頂き有難うございました。そのうち、天孫族について、平常思う所を述べさせて頂きます。結論は「現代日本に生きる古代日本の天孫族の名残り」です。

## 前書き

あまたの歴史書に並んで歴史小説や歴史特集番組など「歴史」に接することが多くなりました。歴史の垣根を超えてドキュメンタリー作家や小説家などの自由な発想の作品も世に出るようになりました。

たまりかねてか、評判になっている百田尚樹の「日本国記」について、朝日新聞に「物語は事実とは違う」という批判文が載りました。(2019. 2. 14)でも「史実を踏まえた上でこれらのフィクションを読むといろいろな意味で楽しめる」ともつけ加えています。私も同感です。最近の日経新聞の連載小説「ワカタケル」(雄略天皇)は読者からクレームが来るくらい史実や学説を尊重していて、舞台が、私が幼い頃、駆け巡って育った生駒山麓の日下村であり、学んだ大和盆地ですので愛着をもって読んでいます。

## 歴史を見る目には時代を透視する「歴史フィルター」が必要と思っています

長じて歴史を学ぶにつれ年齢相応に、私は私なりのいわば「歴史フィルター」を通して見るようになり、偏りを最小限取り除いてと努力している積りです。

### 1) 時代、国家を超えた法則性を見出す

共通性、反復性、教訓などでもいうべきかも知れません。ビスマルクの「愚者は歴史から経験を学び、賢者は歴史から教訓を学ぶ」は現代日本の政治家に突き刺さる名言と思います。

### 2) 神話と史実は必ずしも一致しないのは当然

説話や神話は支配者の特定の意志が働いていることが多く、史実との選別が必要で、逆に一致しないことの考察から真の歴史がレースのように透けて見えます。

### 3) 日本古代史には歴史家の数だけ学説がある

ある出版社の方に聞いた話です。古代日本では同じテーマでも対談をはじめると、対談が議論 (dialogue → discussion) に、議論が争論 (discussion → argument) になり、しまいには口論 (verbal war) になり、ゲラ刷りを送ると相手の分まで赤ペンで真っ赤に直してくるなど、出版物の体をなさなくなる。それは例えば魏志倭人伝のように7千字そこそこの文献のようにデータが極端に少ない、小さい覗き穴から見たことを歴史家が思いを最大限に広げて譲らないのが現状であるというのです。耶馬台

国の所在地にしても九州の先生方は九州説を、近畿の先生方は近畿説を、東大系は近畿系の学説を抑えるため九州説を譲らないのはその一例といいます。

4) 支配者が正当化に「俺たちは神とその子孫」と自称するのは古代社会では多く見られる

ポリネシア、大和政権など神の誕生はドロドロの混迷から生まれたとか、古代エジプト、マヤなど「わが先祖は神や太陽からやってきた」と、政治や祭器などで人民に信じ込ませている。支配者は高度な技術や奇跡を披露して自分たちの「神性」を納得させる。

5) 支配者は**貴族を最上層、自由民を中層、奴隷を最下層**とする階級社会を作り君臨するよく「世界の古代史の共通点は人民の最下層に奴婢、奴隷がくることである」というマルクスの言葉には疑問があるといわれます。しかし史実としては古代ローマ、古代日本、古代朝鮮などは確かにそうでした。

#### ご指摘の支配層の天孫族、勤勉な組織人の弥生人、従順な自由人の縄文人、の三重構造の古代日本人について

古代日本人の持つ「原日本精神」をこのように階層別に三区分されたことは当を得たものであり全く同感です。「古代日本の研究」というと、さる大家がのたまうように、土器とか遺物とかルーペを手に地面を這うような話に成りがちですが（それも重要です）、約1万5千年前からの縄文時代から今日まで通して高い視点で、日本人の精神文化はどうしてでき上がったか、壮大なドラマを化学実験のように目の前に見せて頂き有難うございました。

かつて「文化人類学」とは、人間社会すべての森羅現象を分析しその進化の過程を一般化、法則化として体系化する学問であると知った時は感激しました。

#### 「天孫族」についての私見—その名残りは現在でも見たり聞いたりしている

多少、非国民的にズバリ言えば、「日本は天からやってきた神が作った国で俺たちはその子孫であるから従え、それは神代の最終ランナーの神武天皇を初代として万世一系、現在の125代目の象徴として今上天皇まで続いている」という現代に私達は生きています。信じこまされたのは古代日本人だけでなく、**現代という at this moment** に生きている日本人のほとんどが、「宮中参賀」の万歳に象徴されるように、まだ私達は古代日本の天孫族のかけた魔法からまだ醒めていないとしかいいえば言い過ぎでしょうか。（こういうことを言えばつい最近まで「朝廷を馬鹿にした」と不敬罪（1947年廃止）で逮捕されました）

かたや日本人の美德とか国民性とかいわれますが、歴史の学徒の一人として私に関心があるのは、これほど世界に稀な長続きする仕掛けを作った日本の天孫族の知恵です。

それは一つの知恵ではなく長年の多くの制度が寄り集まったものですが、古代日本で史実に基づく限り、その原動力になったのは「天武天皇」と思います。

1、**官製歴史書**（国史）を作って「我らは神の子である」と信じこませた

どの国でも歴史書は史実よりも権力者の都合のいいように作られるが、天孫族は古事記や日本書紀や続日本記など多数作った。

自らの神たちを祀る神社，神道、祝詞などを全国に広めた。未婚女性皇族「斎王」の宮殿跡も発見された（2019. 3. 7各紙報道）」

今春の即位式には「三種の神器」が使われる。（安倍首相言明）

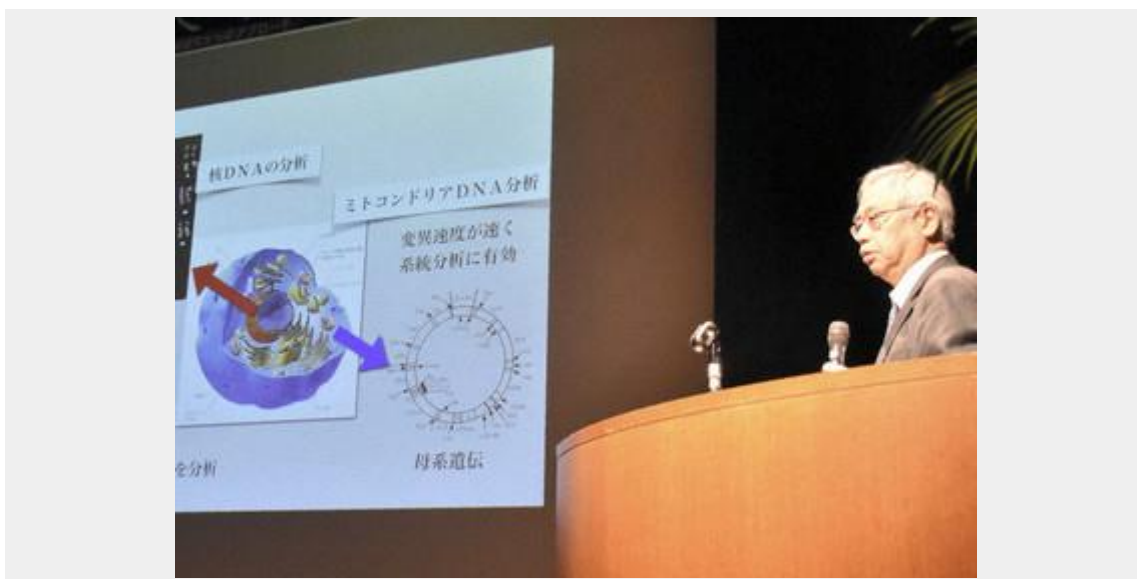
2. 法律制度や身分制度や官位制度を完備して現代まで続く国家の骨格を作った。
3. 外国から仕入れた知識や伝説などを自分たちの神性として人民に知らしめた。
  - ・天体 天体の動きと暦の連動、時間、農作期など支配
  - ・奇跡 日食、盟神探湯、神名裁判、
  - ・鉄 鉄を独占し、豪族に武器や農機具の材料として給した。
  - ・発見 銅、白雉、亀などの発見を自分たちの神性の現れと宣伝した。
  - ・伝説 天孫族由来の祭り、伝説などが地方や山岳に多く残っている。

(終わり)

ご参考

最近〈2019年3月3日〉発表されたDNA分析記事です 太田隆次  
弥生人、母系は渡来系、父系は縄文系か DNA分析で判明

3/3(日) 18:39 配信



青谷上寺地遺跡の DNA 分析について報告する篠田謙一・国立科学博物館副館長＝鳥取市尚徳町のとりぎん文化会館で 2019 年 3 月 2 日午後 1 時 17 分、園部仁史撮影

国史跡・青谷上寺地(かみじち)遺跡(鳥取市)で出土した弥生時代の大量の人骨＝2 世紀ごろ＝の DNA 分析の中間報告会が 2 日、同市のとりぎん文化会館であった。国立科学博物館の篠田謙一副館長が、まだ途中段階で不確かだと断った上で「(人骨の)父系の遺伝子は縄文系に近いグループ」に多くが位置付けられると説明した。父系の遺伝情報が分かる「核ゲノム」分析の成果。

全国初となる弥生時代の人骨の本格的な DNA 分析だけに、約 430 人が興味深そうに耳を傾けた。昨年 11 月の初回の報告会では、母系の遺伝情報が分かる「ミトコンドリア DNA」の分析により、人骨の大半は朝鮮半島や中国大陸などからの“渡来系”が多いとされていた。

当時の青谷地域では多様な遺伝グループが存在したと考えられ、日本人の起源の分析につながる可能性もあるという。今後は DNA 分析を進めて各個体の特徴を調べる方針。【園部仁史】

【関連記事】

- [＜弥生時代の人骨“渡来系”か 青谷上寺地遺跡＞](#)
- [＜日本最古・弥生後期の坑道跡を確認 徳島・若杉山遺跡 従来より 500 年古く＞](#)
- [＜国産硯の製作跡から見えてきた弥生の「文明開化」＞](#)
- [＜縄文人 内陸より沿岸部で腕太く 手こぎ舟で鍛えられ＞](#)
- [＜これが縄文人の顔 瞳は明るい茶色＞](#)

2019. 3. 10